

The background of the slide is a light gray gradient with several realistic water droplets of various sizes scattered across it. The droplets have highlights and shadows, giving them a three-dimensional appearance.

校長先生の話

MOISの校訓 3つのG

その3

3つのG

Grit(グリット) = やり抜く力

「最後までやり抜く力」を身に付け、

Growth(グロウス) = 成長し続ける力

「生涯に渡って学び、成長し続ける」ことで、

Global(グローバル) = 世界に視野を広げる力

「国際的な視野を持って、より良い世界を築くことに貢献する」人になっていこう！

GLOBAL・・・ひとつの例として

1992年6月、ブラジルの首都リオデジャネイロで、国連環境開発会議（地球サミット：UNCED）が、世界172ヶ国の政府代表、国際機関、NGO（非政府組織）の参加のもと開催された。

子どもの環境団体（ECO：the Environmental Children's Organization）の代表として参加した日系カナダ人セヴァン・カリス＝スズキは、その会議において子どもの視点から世界の環境問題について、後に「伝説」と言われるスピーチを行い、満場の喝采を博した。

当時セヴァンは**12歳**であった。

GLOBAL・・・セヴァン・スズキのスピーチ

[HTTPS://WWW.YOUTUBE.COM/WATCH?V=LSZD6PGXSAM](https://www.youtube.com/watch?v=LSZD6PGXSAM)

翌1993年、京都国際会館において開催されたグローバル・フォーラム京都会議においても、来日したセヴァン・スズキは、その会議で閉会の辞を述べ、自らの率直な意見を表明した。

現在39歳になったセヴァンは、その後も精力的に環境問題に関する活動を続けている。

GLOBAL・・・セヴァン・スズキのスピーチを聞いて

あなたは何を感じ、何を考えましたか？

あなた自身は、自分たちの未来をどうしたいと思いますか？

セヴァンさんの思い描く未来が、唯一の答えなののでしょうか？

理想と現実が一致しないのは、どうしてなののでしょうか？

より良い世界とは、どのような世界なののでしょうか？

より良い世界とは、どうすれば実現できるのでしょうか？

そのためにあなたには、何ができるのでしょうか？

1992年6月、ブラジルの首都リオデジャネイロで、国連環境開発会議（地球サミット：UNCED）が、世界172ヶ国の政府代表、国際機関、NGO（非政府組織）の参加のもと開催された。

子どもの環境団体（ECO：the Environmental Children's Organization）の代表として参加した日系カナダ人セヴァン・カリス＝スズキは、その会議において子どもの視点から世界の環境問題について、後に「伝説」と言われるスピーチを行い、満場の喝采を博した。

当時セヴァンは12歳であった。

動画 URL (YouTube)

<https://www.youtube.com/watch?v=1SZD6pGXsaM>

こんにちは、セヴァン・スズキです。

エコを代表してお話しします。エコというのは、子供環境運動（ECO：Environmental Children's Organization）の略です。カナダの12歳から13歳の子どもたちの集まりで、自然環境を守るための活動をしています。あなたがた大人たちに、どうか生き方をかえていただくようお願いするために、自分たちでお金を集めて、カナダからブラジルまで1万キロの旅をして来ました。

今日、私たちが話すことは、すべて嘘のない本心の言葉です。なぜって、私たちが環境運動をしているのは、私たち自身の未来のため。私たち子どもが、自分の未来を失うことは、あなたがた大人が選挙で負けたり、株で損したりするのは次元の違う問題なのです。

私たちがこれから話すことは、未来に生きる子どもたちのためです。世界中の飢えに苦しむ子どもたちのためです。そして、もう行くところもなく、死に絶えようとしている無数の動物たちのためです。

世界中の飢えに苦しむ子どもたちの泣き叫ぶ声は、あなたがた大人の耳には届きません。どこにも行くところがなく、次々と絶滅して行く数え切れないほどの生き物たちのことも同じです。だから、世界中の子どもたちや生き物たちに代わって、私たちが話すのです。

太陽のもとにでるのが、私はこわい。それは、オゾン層に穴があいているから。

呼吸をすることさえこわい。空気にどんな危険な化学物質が混じっているか分からないから。

お父さんと一緒に、よくバンクーバーで魚釣りに行っていました。数年前に、体中ガンにおかされた魚に出会うまでは。

そして今、毎日のように動物や植物たちが絶滅していくのを、私たちは耳にします。一度絶滅してしまった生き物は、もう永遠にもどってはこないのです。

私には小さいころからの夢がありました。それは、いつか野生の動物たちの群れや、たくさんの鳥や蝶が舞うジャングルや熱帯雨林を見ることでした。でも、私は見ることが出来ても、私の子どもたちは、見ることができるのでしょうか？

あなたがた大人は、私ぐらいの年令の時に、今の私と同じように、未来の自分の子どもの心配したことがありますか？

こんな大変なことが、ものすごい勢いで起こっているのに、私たち人間ときたら、まるでまだまだ余裕があるようにのんびりと構えています。まだ子どもの私には、この危機を

救うのに何をしたらいいのかはつきり分かりません。そして、あなたがた大人も、本当の解決法など持っていないと思います。だから、せめて、「本当の解決法など持っていない」ということだけは、自覚して欲しいのです。

あなたがた大人は、オゾン層にあいた穴をどうやってふさぐのか知らないでしょう。

死んだ川にどうやって鮭を呼び戻すのか知らないでしょう。

絶滅した動物をどうやって生きかえらせるのか知らないでしょう。

そして、砂漠となってしまった場所にどうやって緑の森をよみがえらせるのか知らないでしょう。

だから、大人のみなさん、どうやって直すのかわからないものを、壊し続けるのはもうやめてください。

ここに集まっている大人のみなさんは、いろいろな国の政府の代表者や、企業や団体の代表者、そして、報道関係者の人たちです。でも本当は、あなたがたもだれかの母親であり、父親であり、姉妹であり、兄弟であり、おばさんです。そしてあなたがたの誰もが、誰かの子どもなんです。

私はまだ子どもですが、ここにいる私たちみんなが同じ大きな家族の一員であることを知っています。そうです 50 億人以上の人間からなる大家族であり、3 千万種類以上の生物からなる大家族です。いろいろな国の政府や国境が、どんなに分け隔てをしようとも、私たち地球で生きるものたちが 1 つの大家族だということは、変えようがありません。

私は子どもですが、みんながこの大家族の一員であり、ひとつの目標に向けて心をひとつにして行動しなければならないことを知っています。わたしは、今のひどい環境を見て、怒りで心が震えています。それでも、自分を見失ってはいません。わたしは、今のひどい環境を見て、恐怖で体が震えています。それでも、自分の気持ちを世界の人たちに伝える勇気を持ち続けています。

私の国での無駄使いは大変なものです。買っては捨て、また買っては捨てています。そして、そんなにたくさんの物を無駄にしている北の国は、物が不足している南の国と分かち合おうとはしません。物がありあまっているのに、私たちは自分の富を、少しでも手放すのがこわいのです。

カナダで暮らす私たちは、十分な食物と水と住まいを持つ恵まれた生活をしています。食べ物も、水も、お家も、何でも十分にあります。時計、自転車、コンピューター、テレビ、私たちの持っているものを数えあげたらきりがありません。

2 日前ここブラジルで、家のないストリートチルドレンと出会い、私たちはショックを受けました。一人の子どもが私たちにこう言ったからです。

「ぼくが金持ちだったらなあ。もしそうなら、家のない子すべてに、食べ物と、着る物と、薬と、住む場所をあげるのに。それから、やさしさと愛情もね。」

住むところもなく、今日、食べる物もない一人の子どもさえ、自分のことだけでなく、みんなと分かちあうことを考えているのに、全てを持っている私たちがこんなに欲が深いのは、どうしてなのでしょう？

この子ども達は、私と同じぐらいの年齢でした。私は、自分と同じぐらいの年齢の子ども達が、こんな生活をしていたことが、とてもショックで頭から離れません。同じ人間なのに、同じ大家族の一員なのに、どこに生れついたかによって、こんなにも人生が違って

しまう。もしかしたら、私がここブラジルのリオの貧民窟に住む子どもの一人だったかもしれないのです。そして、飢えに苦しむソマリアの子どもだったかもしれないし、大人たちの戦争の犠牲になった中東の子どもだったかもしれないし、インドで物乞いをしている子どもだったかもしれないのです。

もし世界中の国の大人たちが戦争のために使っているお金を全部平和のために使えば、環境や飢餓の問題のために使えば、この地球がすばらしい星になるでしょう。私はまだ子どもですが、それでもこのことを知っています。

小学校で、いや、幼稚園でさえ、あなたがた大人は私たちに、世の中でどうふるまうかを教えてくれます。たとえば、争いをしないこと、話しあいで解決すること、他人を尊重すること、ちらかしたら自分で片付けること、ほかの生き物をむやみに傷つけないこと、分かちあうこと、そして欲ばらないこと。

ならばなぜ、あなたがた大人は、私たち子どもに「するな」ということを、自分達はしているのですか？

みなさんは、今日、何のためにこの会議に出席しているのか、どうか、そのことだけは忘れないでください。そしてこのような会議をいったい誰のためにやっているのか。それはあなたがたの子ども、つまり私たちのためなのです。あなたがたはこうした会議で、私たちがどんな世界に育ち生きていくのかを決めてようとしているのです。

親たちはよく「だいじょうぶ。すべてうまくいくよ」といって子ども達をなぐさめます。あるいは、「できるだけことはしてるから」とか、「この世の終わりじゃあるまいし」と言いますよね。だけど、今の地球の環境を見たら、もうこんな言葉を自分の子どもに向かって言えないと思います。わたしたち子どもの未来のことなんて、みなさんの議題の中にすら入っていないじゃないですか。みなさんは、私たち子どもの未来のことを本当に考えてくれているのですか？

私のお父さんは、いつも、「人間の価値は、何を言ったかではなく、何をしたかで決まる」と言っています。でも、私は、あなたがた大人がこの地球に対していることを見て、泣いています。それでも、あなたがた大人はいつも私たち子どもを愛していると言います。本当なのではないでしょうか？もしそのことばが本当なら、どうか、本当だということを言葉でなく、行動で示してください。

ありがとうございました。